2012 年　活動報告

日本 YWCA の活動は、 皆さまからのご寄付に支えられています。
日ごろのご支援を心から感謝申し上げるとともに、 2012 年度の活動をご報告します。

東日本大震災被災者支援事業　保養プログラム

財団法人 日本 YWCA は 2013 年 4 月 1 日付で 公益財団法人へ移行し、 内閣府より税額控除の証明を受けました。
ご寄付していただく皆さまは、 税の控除が受けられます。 詳しくは別紙または日本 YWCA のウェブサイトをご覧ください。

公益財団法人 日本YWCA

非核・非暴力による平和を実現するために

原発のない社会を目指します

日本 YWCA は 1970 年代から「核」否定の思想に立ち、 原発の問題を社会構造の問題として捉え、 社会的平等を目指すさまざまな取り組みを行っています。 3.11 原発事故で、 原発も核兵器と同様に、 長期にわたり深刻な放射能被害を引き起こすことが現実問題となりました。 私たちは、 いのちを大切にする生き方を選んでいく決意を新たにしています。

日韓ユース・カンファレンスの事前学習会で、 浜岡原発視察ツアーを行う

ひろしまを考える旅のフィールドワーク　ボランティアの高校生の説明を聞く

東日本大震災被災者支援事業

すべての女性と子どもの安心と安全のために をキーワードに、 中長期支援に取り組んでいます。

- 被災者受け入れのための住居支援　セカンドハウス　　利用者数は、 延べ 46 家族 153 人
- こころと身体の保養　保養プログラム　　参加者数は、 延べ 670 名
- 被災者と支援者のこころのケア　　仙台市・福島市を中心に、 ゆっくり丁寧に思いを聴いています。
- 福島県相馬郡新地町の活動

  新地町教育委員会や新地町社会福祉協議会と連携し、 とくに子どもたちへのケアを継続しています。

  尚英中学校全校生徒震災体験記のデータ入力と英語翻訳作業も行いました。
- 福島市に活動スペースを開設

  2012 年 10 月に、 JR 福島駅の近くに YWCA 活動スペース「カーロふくしま」を開設。

  福島に住む女性や子どもの交流の場としてスペースを開設し、 プログラムを行っています。

カーロふくしま

保養プログラム

海へ山へ川へ

平和憲法をまもり、 世界に広めます

私たちは今、 憲法 9 条をないがしろにする改憲の動きに直面しています。 YWCA は戦後一貫して平和を創る活動を行ってきました。 平和憲法のすばらしさを広く伝えながら、 改憲の大きな動きを止めるために、 衆議院・参議院の憲法審査会を傍聴し、 他団体と協働しながら活動しています。
秋には日本国憲法と自由民主党憲法改正草案比較表を作成し、 また小沢隆一さん（東京慈恵会医科大学教授）の講演会を開催しました。

市民レベルで東北アジアの信頼関係を築きます

韓国・中国などの近隣諸国との関係は、 国と国との外交関係としては、 領土問題や戦中・戦後処理の問題をめぐって、 たびたび軋轢が生じています。 このような状況にあるからこそ、 私たちは草の根での市民同士の交流と相互理解が大変重要であると考えます。 日本YWCAは、 長年それぞれのYWCAと良好な関係を保ち、 顔の見える交流を行っています。 2012 年度は、「ひろしまを考える旅」「日韓ユース・カンファレンス」「南京を考える旅」を実施しました。

ともに考え協力する大切さを学んだ

活発に意見交換を行った

パレスチナYWCAの活動を支援します

パレスチナではイスラエル軍による広範囲にわたる破壊が、 今も日常的に行われています。 けれども人々は生命への危機にも関わらず、 希望を失わずに暴力のない社会を創ろうとしています。
日本YWCAはパレスチナYWCAの活動を応援し、 パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAが共同で行っている「オリーブの木キャンペーン」を支援しています。 イスラエル軍によりオリーブの木を根こそぎにされた土地に 5 万本のオリーブの木を植える活動です。 2012 年度は日本YWCAを通じて 139 本のオリーブの木が植えられました。

オリーブ畑

イスラエル軍のブルトーザーによって根こそぎにされるオリーブの木

はだかにされた土地に、 苗木を 1 本ずつボランティアが植えていく

若い女性のリーダーシップを育成します

日本 YWCA は、 若い世代がのびのびと発言し、 活動できる場を提供します。 また若い世代をサポートするために、経験豊かな世代との協働も大切に考えています。 すべての女性が年齢に関係なく、 自立した個人として大切にされ、エンパワーされ、 意思決定の場に自信をもって参画し、 ともに社会を変革するチカラとなることを目指します。

環境に関するユースのリーダーシッププログラム“Yuva Hubba”

@インド・バンガロール （6月15～17日） 派遣2名

インド YWCA が主催したこのプログラムでは、 地球規模で影響する環境問題と、 世界共通にみられる若い女性がこうむる負の影響について考えました。 日本は原発と環境・人権の問題をテーマにワークショップを実施しました。

緑豊かな環境で実施された

日本からのワークショップ

楽しい企画も

ひろしまを考える旅2012

「グローバルヒバクシャーひろしまで考える被爆と被曝」（8月7～9日）
参加者54名（海外ゲスト4名、留学生4名、ボランティアリーダー4名を含む）

核兵器だけでないヒバクの実態を知り、 核と人間は共存できないこと、 放射能被曝はグローバルに影響が及ぶことを共有しました。 これ以上ヒバクシャを増やさないために、 私たちができることを考えました。

ディスカッション

グループ発表

フィールドワーク

日韓ユース・カンファレンス2012

＠水俣 「原発」（8月24～27日） 参加者41名（韓国21名、日本20名）

東北アジアでの脱原発に向けた社会的状況の理解と問題解決方法を、 日本と韓国のユースで考えました。

公益財団法人三菱 UFJ 国際財団、 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金、 公益財団法人日韓文化交流基金より助成を受けました。

ディスカッション

フィールドワーク

YWCA国際研修会（ITI）

＠韓国 「女性に対する暴力、平和構築、女性のリーダーシップ」（11月3～18日） 派遣2名

ワークショップ、 専門家によるレクチャー、 DMZ（非武装地帯）へのフィールドワークなどを行いました。
日本からは DV に遭った女性のシェルター事業やカウンセリングサービス、 軍事基地・兵士の存在によって脅かされる女性の人権について報告し、 国境を越えた草の根の連携を深めました。

南京を考える旅2012 「平和の種を蒔こう」

＠南京 （12月11～15日） 参加者40名（中国26名、日本14名）

1937 年 12 月、 日本軍が南京を侵略し 30 万人とも言われる人々を虐殺しました。 その史実を日本と中国の参加者がフィールドワークを通じて、 ともに学びました。 感じたことを分かち合い、 未来の平和を築くために、 一人ひとりが出来ることを考え合いました。

真剣な意見交換

短い滞在でしたが、交流を深めました。

第57回国連女性の地位委員会

＠ニューヨーク 「女性と少女に対するあらゆる形態の暴力の削減と防止」（3月1～15日） 派遣4名

沖縄の基地と女性に対する暴力に関して、 提言を行いました。

女性と子どもの権利を守るために

日本 YWCA は、 社会の中で特に弱い立場におかれた女性や子どもたちの声に耳を傾け、 寄り添い、
決して一人ではないというメッセージを、 活動を通じて伝えていきます。
ジェンダー意識を高め、 女性と子どもたちが安全で安心して
生きられる世界を創るため、 さまざまな活動を行いました。

ジェンダーについて考えます

すべての女性たちがリーダーシップを発揮する社会を実現するためには、 私たちの社会をジェンダーの視点で問い直すことが求められています。 ジェンダーの不平等の是正、 女性への暴力の根絶は、 世界の平和の実現と密接に関わっています。 日本 YWCA は女性のエンパワメントに力を入れ、 すべての意思決定の場に女性が参加することの大切さを訴えています。 2012 年秋にはワークショップ「ジェンダーの視点から YWCA の活動を考える」を行いました。

軍事基地と女性への暴力について考えます

軍事基地の存在が、 女性や子どもたちの安全と安心できる社会を危機に陥れることは、 沖縄をはじめ世界各地の女性たちの証言から明らかです。 また、 軍事力が平和を創り出せないことは歴史が証明しています。 沖縄 YWCA・呉 YWCA と連携して、 情報を集約しながら基地をめぐる問題を女性の視点で取り組み、 政策提言を行いました。
3 月にニューヨークの国連女性の地位委員会では、 沖縄の基地と女性に対する暴力に関して提言を行いました。

CSW:国連女性の日の行進の前に

米軍基地

院内集会
(c) 2013 YWCA of Japan

児童買春の禁止など子どもの権利をまもります

日本 YWCA は「ECPAT/ ストップ子ども買春の会」の構成団体です。 子どもの人権をまもり、 性的搾取・人身売買の根絶のために政策提言などの活動をともに行いました。 また、 子どもの教育、 貧困、 教科書問題にも目を向け、 すべての子どもたちが安全で安心できる社会の実現に向けて、 市民団体と連携しながら政策提言を行いました。

2012年度 声明・要請書

2012年5月2日　プルトニウムをつくる再処理計画の中止を求めて共同声明を発表

6月20日　野田佳彦内閣総理大臣ほか宛てに「大飯原子力発電所再稼働即時停止を求める要望書」を提出

6月27日　「世界平和アピール七人委員会」のアピールを支持し「安全保障に質する」と加えられた、改正原子力基本法の即時撤廃を求める表明をウェブ上で行う

10月25日　YWCA of Japan Calls Ending Military Violence Against Women and against all Populations. をウェブ上に掲載

11月20日　駐日イスラエル国特命全権大使ほか宛てに「ガザの女性たち、子どもたち、市民のための緊急アクション」として要望書を提出

2013年1月22日　駐日インド大使宛てに「インドにおける女性に対する暴力への対策強化について」の要望書を提出

2月15日　朝鮮民主主義人民共和国の核実験実施に対する抗議声明を提出

3月22日　『「集団的自衛権の行使」は「戦争」です。安倍内閣は憲法の不当な解釈変更をやめ、9条を守れ！』共同声明に賛同

3月25日　バラク・オバマ米国大統領ほか宛てに「米国のZマシンによる核実験実施に対する抗議声明」を提出

3月25日　安倍晋三内閣総理大臣ほか宛てに「沖縄県への辺野古新基地建設の埋め立て申請強行に対する抗議声明」を提出

日韓ユース・カンファレンス 2012

2013年度もご支援をお願いします！

日本YWCAの活動を財政面から支えてください。 寄付によって女性と子どもをエンパワーする活動に参加してください！

賛助費

日本YWCAの活動全般を継続的に支えてください。
どなたでも賛助員になれます。

年間 一口　3,000円 / 5,000円 / 10,000円

ピースメーカーズファンド ～女性が創る安全な社会のための寄付～

金額は自由

若い女性をエンパワーする研修費補助等をサポートしてください。

多文化共生ファンド

紛争や自然災害の被災者へ緊急/中長期支援を行います。

金額は自由

● オリーブの木キャンペーン募金　一口 3000円で1本のオリーブの木をパレスチナに贈ります。

東日本大震災被災者支援募金

金額は自由

中長期支援体制に入り、現在心のケアに力を注いでいます。
震災の年に生まれた子どもたちが20才になるまで支援を続けます。

お振り込み先：

郵便振替　00170-7-23723
公益財団法人　日本YWCA

＊通信欄にご寄付の種類をご記入ください。
（例：賛助費、ピースメーカーズファンド、多文化共生ファンドの○○募金、など）

＊税の控除が受けられます。詳しくは別紙または日本YWCAのウェブサイトをご覧ください。

2012年度　寄付報告

日本YWCA賛助費	1,613,000	円
ピースメーカーズファンド～女性が創る安全な社会のための寄付	1,441,253	円
多文化共生ファンド	1,059,345	円
内訳　緊急被災者支援	191,470	円
パレスチナYWCA支援	432,375	円
オリーブの木キャンペーン募金	415,500	円
変革の力基金	20,000	円
指導者養成寄付	271,000	円
東日本大震災被災者支援募金	14,959,739	円
寄付合計	19,344,337	円

ありがとうございました

発行：2013年6月　公益財団法人　日本YWCA　〒101-0062東京都千代田区神田駿河台1-8-11東京YWCA会館302号室